

平成30年7月豪雨災害 消防団活動報告会（まとめ）

- ・日 時：平成30年9月13日 18:30～
- ・場 所：消防本部 講堂
- ・出席者：団本部、分団長（川上自動車分団欠席）、消防長、消防総務課事務局

<開会>

■ 西 団長

皆さん大変ご苦労さまです。7月の豪雨災害から1ヶ月が過ぎました。まだ傷跡は残っており、そうした中、先週の土曜日、日曜日には大雨警報が発令されまして、備中分団、高倉分団が出動されました。異常気象と言う言葉が今は異常ではなくいつ起こってもおかしくない状況になっています。そんな中、7月豪雨では各分団の皆様には大変ありがとうございました。団本部をはじめ各分団がどういった活動しているのかが分からなかった現状です。

あってはならないことなのですが、今後はこういった災害がいつ起こるかわかりませんので、各分団で情報を共有し今後の分団の活動に活かしていただきたいと思います。

6月の終わりにはこのような状況になるとは思わずに、全分団で水防訓練を行いました。まさしくこれが役に立ったと思います。それぞれ皆さんからの今回の豪雨災害の活動について話していただきたいと思います。

■ 渡辺 消防長

皆さんお仕事でお忙しい中、消防団活動報告会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。7月の豪雨災害の時には各分団の皆さんそれぞれ各地域で活動され、全体的にどうだったか、こうだったかと言うような話をするのが非常に大切だったと思います。

消防署、本部の方もやはり現場活動でそれぞれが自分に出来ることをそれぞれ目撃した中で活動したと言うのが実情でございます。やはりこういう災害はめったにない事でございます。

皆さんで今日お話をすることをここで留めることなく市民の皆さんに知っていただき、次の世代に知っていただくと言う雰囲気大切だと思いますので、良かったこと悪かったこといろいろあると思いますが、次の世代に残して行きたいと思っておりますので、宜しく願いいたします。

■ 平松 消防総務課長（事務局）

資料の説明を行う。

<各分団活動報告>

■ 森 高梁分団長

活動内容としては7/5の避難勧告で広瀬の広報活動、7/6は広瀬、大瀬八長地区へ避難広報、紺屋川と駅裏カフェの山側の土砂崩れ現場へ土のう積み、午後8時30分に高梁川へ水防板設置、民家へ水が入ると情報が各地で発生し、土のう積みを行う。

国道484号線沿いの櫛井地内で土砂と倒木の撤去、夜中は警戒活動を行い7/7は近似地区の土砂崩れ現場に消防署と出動し、無事1名を救出しました。

■ 大森 津川分団長

7/5.6は主に土のう積み、7日は消防署と市民センターから土のう積み要請があったため、土のう積みを行う。また、議員さんと市民センター長から各地区の見回りの要請があったため各地区

に出向く。幡見から辻巻きへ行くのに片側通行だったが通してくれなかったので行けなかった。
意見として長靴がいると思います。

■ 福本 川面分団長

7/5の午後11時過ぎに川の水が多いと団員から連絡があり、現場に行ったところ水位が上がっていたので土のう積みをして1時間ぐらいました。

7/6午後7時頃団員を召集し、職場会議に出ているので途中から川面の避難所へ行きました。
川面の避難所から団員と連絡を取りながら、土嚢積み、安否確認、避難広報を指示し、避難していない人に電話連絡をしました。

7/7の朝は谷の土砂を撤去したりしました。7/8は谷の土砂撤去と断水していたので給水車が来るため、住民へ広報をしました。

■ 加藤 巨瀬分団長

7/6の午後6時過ぎに団員の召集をかけ、家の裏山が一部崩れたと言う事で消防署から連絡があり、現場に行ったところ木が家に倒れかかっており、消防団だけでは出来ないため、消防署が来るのを待ち消防署の人が到着後に木を切って救助してくれました。

その後、救助された方を避難場所へ連れて行きました。山から土砂が国道の方へ出て来ていたので、水の流れを変えようと土のう積みをしました。詰所前の道へ有漢川の水が溢れて浸かりかけたため、土のう積みをして民家へ水が行かないようにしました。家から避難したいのだけど車がないので、避難出来ないとして市民センターから要請があり、団員が家に行って避難場所へ連れて行きました。

警戒活動が落ち着いた後に、各部に帰っていたところ2部の器庫へは土砂崩れ等で器庫に帰れなかった問題が出ています。分団として1・2部合同で一旦器庫に集まって一箇所で待機するのが良いのか、それとも1・2部に分かれて各方面で警戒をするのが良いのか、課題が出ていますので各部で調整しようと思っています。

また、断水の広報と7/15には有漢町での搜索活動を行いました。

■ 安田 中井分団長

7/6に裏山が崩れているとの要請があり、現場に行き家人に避難するように言いましたが、大丈夫といわれ避難してくれなかった。市民センター長から避難指示が出たので広報するように言われ広報活動を行いました。その後、1軒1軒避難してくださいと言って回ったのですが、中には避難してくれない人もおり、避難してくれない人は今まで大丈夫だから大丈夫だろうと言う事でした。

7/7は道路の土砂を取りに行きました。本部を立ち上げていたのですが現場との連絡がつかなかった。雨だったので携帯電話を車に置いていたので今後は改善します。

■ 森宗 玉川分団長

7/6の9時30分頃団員を召集し避難勧告が出たので積載車で広報をしました。

その時、避難場所の指示が災害対策本部から文化交流館と言うことでしたが、河内谷等を通って車で避難するのは危ないので場所の指定はせずに避難してくださいと言いました。

21時頃、広報車で広報に行ったのですが、広瀬の新しい橋は渡れたのですがこの時すでに駅のホームの高さまで水が来ており、国道に出たのですが上にも下にも行けませんでした。帰りに東伸運輸のところを帰っていたところ、寺下地区へ高梁川から水が逆流して来て午後9時頃には3軒くらい門前まで水が来て浸かり、動きが取れなく避難して一夜を過ごしました。

その後、のぞみ地区を個別に回って水がすぐそこまで来ていると伝えて回りました。

市民センターが断水するとの事で、私も市民センターに居たのですが、危険なので市民センターのブレーカーを切り小学校へ退去しました。市民センターも器庫も床上まで水に浸かりました。

小学校も断水の恐れがあったので手分けして校舎 1 階の先生の資料とか金庫の中の物を全部出して 2 階に持って上がりました。23 時頃がたぶんピークだったと思います。

小学校の床上浸水はまぬがれましたがグラウンドが水に浸かりました。沖の原地区で 1 軒取り残されている人がいるとの情報が入りましたが、行く事も出来ず、平屋の家だったので屋根裏に避難されていました。

広瀬地区へ夜が明けて行ったのですが、住民の人が 2 階から手を振っていたので、広報車のマイクを使ってもう少ししんぼうしてくれと話しかけました。団員も 14 名が被災しました。床上浸水が 11 軒、床下が 2 軒で玉川は半数が水に浸かっており 121 名の方が避難されました。

活動としては道路へ被災したゴミを集めて回ったり、断水していたので軽トラックに 500 リットルのタンクを積んで水を入れ洗い物等に使ってもらいました。

反省点としては避難誘導しても一部の人は自宅に居る人もいましたし、避難場所が文化交流館となっていました。夕方この時間帯に河内谷を通行するのは危険な行為ですので避難するようには言いましたが場所の指定の広報はやめました。

今回の水害を考えて救命ボートと救命胴衣、長靴と神崎地区の水門が閉められたかどうか確認してないのですが、カップと毛布を準備しておくのが良いと思いました。

被災当初は消防本部に連絡しましたが、団本部の人と緊急活動の連携が取れなかった。

広瀬、河内谷地区の被災支援のあり方、被災当時の支援のあり方を考える必要があると思います。

■ 本倉 宇治分団長

7/5、19 時 35 分頃大雨警報が発令され、17 時頃に宇治町の笹尾地区に、毎年川が氾濫する箇所がありまして、その水位の状況を確認したところ、現在降っている雨が続けば家屋が浸水しそうと言う事で報告を受け、携帯の雨雲の情報を確認すると、今後 50 ミリ以上の雨が降りそうと直ちに団員を召集し、浸水しやすい箇所近くの高齢者を市民センターへ避難をうながしました。公民館長へ状況を報告し避難場所を開設していただきました。

その後、毎年大雨で水害箇所がある所を確認しに行ったところ、直ちに土のうを積んで欲しいという依頼が 4 箇所あり、そこに土のうを積みました。

山の状況を確認すると予断をゆるさない状況でありました。

翌日 7/6、昨日より状況は悪化していると予想したため消防署へ土のうを取りに行かせました。

家屋裏の土砂と崩落箇所もあり住民の避難を指示し、川の氾濫箇所に土のう積みをしました。

土のうの土もなくなり幼稚園の砂場の土を入れて各箇所へ土のうを積みました。各地域からの情報も入り豪雨の凄まじさを実感しました。

日曜日には土砂の崩落箇所の撤去作業をしました。

反省点としては、土砂災害の危険箇所が多いため毎年起こりうる大雨に対して降水量を確認した上で早期に出動等していきたいです。

また、それ以外に毎年浸水が発生するので工事をして欲しいと行政にお願いしたいです。

要望といたしましては、一人で土のうができる道具がほしいです。

■ 横店 松原分団長

被害状況ですが人的被害は確認しておりません。また、建物の被害も大きなものはなかったようです。倉庫などへの土砂の流木で壊れたのはありましたが、一番問題になったのが松原から他の地域に行く大きな路線、井谷方面、近似方面、高倉方面、成羽方面、宇治方面とも全部寸断されており、孤立しているような状態に一時的になり、救急車も消防車もこれない状態になっておりました。小さい道路も被害を受けて一部孤立した家もありましたが、電話連絡が取れて無事だと言う確認はしております。

消防団の活動としては、町内会長さんを通じて全戸へ安否確認をしていただき、連絡の取れない方のみ家に確認に行き広報活動をして注意を呼びかけました。

7/7には道路被害の確認を行い、訓練で行いました住宅地凶へ通行止め箇所や迂回路を記入し、孤立している家には確認に行きました。断水で給水車の広報は町内会長さんを通じて全戸に連絡をしましたので広報活動は1回だけとしました。

断水で火災時に備えて防火水槽の点検も行いました。

反省点ですが団員も道が寸断されたため帰ってこれない方が数多くおりました。

消防器庫の裏が崩れ雨水が器庫の中に入り、屋根から雨漏りがするので改修をお願い致します。

孤立しない道路を作っていただきたいと思います。

■ 平松 高倉分団長

7/5に大雨洪水警報が発令され、この時点で出動可能な団員さんに水害対策の準備の指示をしました。

7/6の夕方6時に集まれる可能な団員さんに土のうの用意をしていただきました。

毎回、水が出た時等に水害の恐れのあるところに土のう積みに行っていましたので、そのための準備のため土のうの作成を団員7名が集まって行いました。

梶村地区の堤防へ仕切り板を入れ、180号線脇のレモン樹の所の山崩れもありました。

土のうを作成している時、川の水もかなり増えまして高倉分団の器庫は川の近くにあり、水が来ている状態で器庫へ本部を置いての活動は出来ないため、避難しようと言う事で器庫内の大事なものは2階へ上げたり、棚の上のに置いたりして器庫を離れました。本部を近くにある高倉のライスセンターに置き、電気もつくし、水、トイレ、土砂崩れの恐れがない、川に浸かることもないので本部を移設しました。

新見方面も通行止めになり、高倉荘の被害状況を把握するために団員3名を行かせました。職員さんがいなかった状況で避難の手伝いをしました。

梶村地区がかなり水に浸かっていたので、高倉の市民センターを避難場所としていましたが、梶村辺りではまだ避難をされていない方がいましたので、団員が避難するよう広報をしました。高倉の市民センターは川の氾濫があれば水に浸かりやすいところで、市民センターの約20メートルの所まで水が来ていました。

市民センターは孤立した状態になり、上側から細い道のみを通って行くことが出来る状態で国道からは行ける状態ではありませんでした。

被害状況ですが梶村地区は床上浸水、肉谷地区は山からの鉄砲水で家が2軒程かなり壊れています。その時、消防署から肉谷地区で人が家の中に閉じ込められ生き埋めになっているので様子を見に行っていただけかと連絡がありましたが、孤立した状態で国道も通行出来ない状態で川面方面にも迂回出来ないし、かぐら街道も通行出来ませんでした。

肉谷へは行くことが出来なかったのですが、消防署から救出し助かりましたとの報告がありひと安心しました。

肉谷地区から秋町へ行く途中に軽四が川の中に流れついており、軽四の中に人が居るか見に行ってくださいと言われ幸い軽四の中には人はいませんでした。

反省点として、部からの情報発信をしていなかったのと情報も入って来なかった。

また、市民センターとの連携も良くなかったことです。

要望ですが器庫が水に浸かりやすい所にあるので、災害があった時には本部として活動出来ないで器庫の建て替えを出来ればして欲しいと思っています。

■ 中島 落合分団長

7/6、20時頃、西団長を通じて落合町阿部(市場)地内の民家が浸水しているとの出動指示がありました。20時30分頃、土のうを作成し市場地内の民家に向かいましたが、警戒活動の積載車と土のうを積んだ軽トラックと土のうを積んだ積載車の3台で向かっていました。ナフコの所ですでに約80センチの冠水があり、市場の民家には進入出来ないで、その時点で土のう積みを断念し救助の避難広報活動に切り替えました。

しまむらの交差点の所に行き積載車で広報活動をしたのですが、なかなか窓を締め切った状態なので家の中まで聞こえていないような状態でした。

その後、冠水していない道路で避難の広報活動をしました。そうしているうちにだんだんと水位が増えて来て、21時頃に冠水した道路に軽四が入って来て動かなくなり、団員と助けに行きました。そのような状態で通れると思って来ている車がたくさんいて、国道313号線も藤倉が冠水して通れないと言う事で、大型トラックが6・7台と乗用車がこちらに向って来ていたのですが、その時点では落合橋辺りが冠水している情報は全く入って来ませんでした。

市場地内が冠水していると言うことは、おそらく落合橋も通れないと思い大型トラックを止めました。ここから先は通行出来ないで大型トラックを高い所へ持って行くか、若しくはこの場に置いて避難してくださいと言ったのですがなかなか聞いてもらえず、団員が交通整理の対応をしてくれたのですが、結局大型トラックの運転手は北山の公会堂に避難していただきました。

その後、大型トラックは水に浸かって動かなくなりました。

もう一台の積載車が市場地内で民家の1階が浸水している情報が入り、2階に避難させるために向いました。避難誘導をした後、成羽方面に向かって来るよう指示をしましたが、積載車の運転手は成羽方面は通行出来ないで判断し、ローソン側の方に向かいました。ローソン側も冠水していたのでローソンの駐車場へ積載車を止めたところ、約2名が孤立した状態でおりました。

その後、ローソンの駐車場に車を駐車していた避難者が19名集まって来ました。

だんだんと水位が上がって「これじゃーだめだ」と言う事で、直ちに避難誘導を行い積載車の脚立を物置の上に掛けて積載車を伝えて物置の屋根に上がって、脚立からローソンの屋根まで21名を上げました。結局21名は後程消防隊により救出されました。

救出までに何時間かかかりましたが、ローソンの屋根まであと1メートル、50センチですと団員から連絡があり、どうなることかと思いましたが、無事21名全員を救助することが出来ました。

その後の活動として、すでに辺りは冠水しているので避難広報と道路警備に切り替え「成羽、高梁方面には道路が冠水して通行出来ません、松原方面にも市道が崩落のため通行出来ませんので避難所へ行ってください」と他の団員と共に避難広報を行いました。

そして、避難場所の落合小学校と落合研修会館が避難者で満杯になると落合市民センターから連絡があり、「分団長対応をお願いします」と言われたため、他の団員と検討した結果、太陽の丘がいいんじゃないかと言う事で、電話で避難場所として開放してくれないかと交渉したところ、よろしいですとの事で避難者 100 名を団員と共に避難誘導しました。

それと並行して逃げ遅れ者の警戒活動を行いました。まだイーグルとか民家に避難していない人が何名かおられ、子供を連れてこちらに向かって来たので、その方に聞いたら、ぜんぜん僕らが避難広報した声が聞こえなかったと言われ、何があったのですか、どこに行ったらいいのですかと聞かれ、落合小学校は避難者でいっぱいになったので太陽の丘へ行ってくださいと言って、その方たちを積載車に載せて太陽の丘まで連れて行きました。

避難所に飲料水がないと市民センターから連絡があり、たまたまセブンイレブンに行ったところ、店先にはほとんど飲料水は並んでなかったため、店長に言って裏から 200 本飲料水を出してもらい落合小学校体育館と北山公会堂、太陽の丘、研修会館に飲料水を持って行き避難者に分けてあげました。

その後、車も行き来しなくなったので器庫に帰りました。落合分団は阿部、福地、原田に器庫があり福地の人は地元の器庫から何名かで福地地区の警戒活動を行いました。福地にはホテルの里という特別養護老人ホームがあり、そこが冠水して高梁方面に来れないので福地地区で活動するように指示し、原田地区も市道・県道が通れないため器庫から原田地区の警戒活動を指示しました。

翌日、6 時頃から道路警備とか警戒活動をして藤倉の小林石材店の手前まで冠水して道路は通れません、高梁方面はしまむら手前まで冠水して通れません、しまむらからナフコの通りとイーグルに行く道路も冠水して全く通れません、イズミの駐車場で約 30~50 センチの冠水がありますが、店の中には水は入っていませんでしたと状況を本部に報告しました。

7日は消防本部からの指示で市場地内に取り残された人の救出を署と協力して行いました。14 時頃、国道 313 号線の境谷付近及び市道の土砂、倒木、落石の除去を行いました。

その後、適宜警戒活動、道路警備を行い 16 時 20 分頃に本部から解散の指示がありましたので解散しました。

落合地区は阿部、福地、原田があり、各地区で活動の対応が違って来るので今後にかかしていきたいと思います。

反省点と気づいた点として、分団内での招集をかけるタイミングが遅かったと反省しております。大雨警報が出た時点で召集をかけても良かったのではないかと思います。

また、分団長に落合町の近辺の状況が全く入って来なかった、藤倉が通れない高梁方面に行く 313 号線が冠水して通れないと言うのも、運転手や団員から聞いたり、SNS を見たりとかしたのですが、情報が入って来なかったのが次につなげる指示が出来なかったのが分団長だけでも消防無線の傍受が出来ればと思いました。

住民の避難広報も積載車のスピーカーをマックスにしても家の中に聞こえていなかったのも、住民に避難を知らせる防災ラジオ等はありませんが他に良い方法はないか。

避難場所の確保として、落合市民センター、落合小学校体育館、落合保育園、落合幼稚園、各地区の公会堂等がありますが最大 400 人ぐらいしか収容出来ない。

7 月豪雨ではたまたま太陽の丘が受け入れてくれましたが、最大 500 名程度しか避難者を収容することが出来ない状況です。今回はこれくらいでおさまりましたが、これ以上の災害が来た

らもっと避難場所が居るのではないかと思いました。

道路警備をしたのですが、コーンとか道具がないので市民センターで借りたので、あれば良いと思います。ライフジャケットとボートがあれば助けに行けたのにはと思います。団員が避難誘導をしたのですが、団員の人員把握ができなかったのが、団員の命を守るのが大変でした。今回、団員も地区の人も犠牲者がいなかったのが大変ありがたいと思います。

いろいろと大変だったのですが、今後につなげていきたいと思っています。

■ 岡田 有漢分団長

出動は7/6・7・8と7/14・15で主な活動内容としては避難広報、避難誘導、土のう積み、行方不明者の捜索等を行い延べ出動人員は249名でした。7/6の夕方6時30分から出動を行いました。このころ私は真庭地域におり、少し遅れて午後8時頃地域局の本部へ詰めました。

真庭から帰る道中も激しい雨、山からの濁流、河川の増水等がありやっとの思いでたどり着きました。道中、これはただごとではないと感じました。有漢に到着時点では地域局へ避難者も多数おられ、最大で200人程度避難されていると聞いています。

信じられない、テレビで見る他の地域で見る光景が目の前にありました。時間が深まるにつれ被害がひどくなり、巡回出動中の団員から、ひっきりなしに電話が入るようになりました。

家屋崩壊、土砂崩れ、水没など多数の連絡を受けるばかりで、何も出来ないと言う事で無力さを感じました。7/6の夜11時過ぎだったと思いますが、行方不明者発生的一方が入り江川副団と現地へ向かいました。行方不明になった経緯も分からない状況でしたが、自宅後方の山が崩れており、可能性としてその中に居るかもしれないとの情報がありました。

その情報を聞くとほおっておくわけにはいかない、可能性があれば一刻も早く救出の決断をし、近くの建設業者でユンボをお借りし操縦をお願いしました。

その日も発見に至らず、翌日も捜索、1週間後の7/14・15も捜索を続けましたが、残念なことに今だに発見に至っておりません。今でも高梁川沿いを走行する時には川が気になります。

全体の総評ですが、団活動全体で怪我人が出なかったことは良かったと思います。連絡体制の指示は出せて良かったと思います。地域局長さんとの連絡もきっちり取れたと思います。

今後は地球温暖化等々で集中災害等、何が起こるか予測出来ないケースが増えてくると思いますので、最悪の事態を想定した訓練をすることが必要ではないかと思いました。

■ 松尾 成羽自動車分団長

7/5は活動なしで7/6の6時過ぎに召集をかけまして、成羽分団と一緒に成羽地域局へ本部を立ち上げましたので、ここに詰める形で指揮を取りました。その時点ではかなり成羽川の水は増えていましたが、特に被害は出ていなかったのととりあえず器庫で待機していましたが、さすがに雨が全く止む様子はなく、水量もかなり増えて来ましたので、成羽分団の方に川の樋門を閉めてもらうように指示しました。

樋門を閉めると住宅地の排水が出来なくなるので、水を川へ排水するように成羽自動車分団2部のポンプも一緒に出動して排水活動を行いました。

かぐら橋の国道313号線寄りが崩れたとの情報が入り、自動車分団を通行止めと言う形で現場に行かせました。成羽の中電の電力センター辺りが最終的に浸かってしまいましたので自動車分団1部の団員を通行止めと言う形で行かせました。

川南の本丁付近に水が溜まってしまいましたので、ポンプ車を行かせて排水活動を朝まで行いました。朝方には雨も小降りになり水量はすぐには減りませんでした。排水活動の継続と器庫

での待機を 10 時頃まで行い一旦解散しました。午後から水は引いたのですが電力センター辺りの道路へ泥が溜まっていると言う事で、成羽分団と共に午後 2 時頃から 5 時頃まで道路の掃除をして活動を終了しました。自動車分団の活動としては金曜と土曜日です。

意見として活動をしている途中で考えられたのが、国道 313 号線が土砂崩れ等で通れなくて成羽地域が孤立してしまったのですが、孤立している時に川上町方面から車が来たので隣接分団と定期的に連絡を取ればと思いました。

降雨時の出動基準があまり明確でないので、たとえば警報が発令されたら出動するというように決めておいたのが良いのではないかとの意見が出ました。

ダムの放流状況は地域局には入っていたのですが、実際にどのくらいの量になるかの知識が無いので、実際 2000t 放流したらどのくらいまで川の水位が上がるか情報を入れとかないといけないと言う話がでました。

樋門と水門の件で責任分担を消防は樋門を閉める体制にして、たとえばどのくらい水位が上がったら樋門を閉めるかと言う知識がないので学習して継承していかないと思いました。

自家用車で出動して故障した時、損害を受けたときは対処してほしいと思いました。今後は実践的な水防訓練を考えなければいけないと思いました。長時間に渡る活動とか地域が孤立した時のためにスーパー、コンビニ、ガソリンスタンドと協力体制を確立しておくのも重要ではないかとの意見も出ました。

実際ポンプを動かして燃料がなくなりました。予備はありましたが、そのまま朝まで活動していたら燃料がたりなくなるので、夜でも燃料の給油が出来るようにスタンドと提携しておくのも必要ではないかという意見も出ました。

■ 川月 成羽分団長

水害状況は成羽電力センター付近の成羽自動車辺りが一番大きかったです。成羽川に入り込む支流の合流地点の被害が大きかった。用水からの排水が樋門を閉めた事によって、排水が出来ないため浸水被害を受けている家庭が多かったと思います。可搬と自動車のポンプを使っての排水操作を行っていました。

島木川に抜くための大型の排水ポンプがあるのですが、その時に故障してたのか、点検はいつかしたらしいのですが、その晩になって動かなかったと言う事で排水が充分出来ず、浸水被害を受けた家庭が何軒かあったようです。

避難要請を受けたのですが、そこに行く事も出来なかったという事も 1 件ありました。

団員の活動内容としては、各部は警戒活動に回り浸水状況の確認、土のう作りと水防工法を実施しました。樋門の管理と言う事で成羽川の水利を確認し、7/6 に樋門を閉めて 7/7 に水位が下がったことを確認して樋門をあけました。

反省点として土のう用の砂置き場が以前は前の福祉センターの近くにあったのですが、福祉センターの改修工事と言う事で土のう用の砂置き場が変わりました。そのため移動した砂置き場に 1 回は取りに行けたのですが、2 回目に行こうと思ったらそこに行くための道路が浸水して、土のう作りに行くことが不可能であった。成羽小学校の砂場の砂を最終的には使って、土のう作りをやったということが現状です。

可搬ポンプで排水活動をしていましたが、深夜にガソリンがきれて動かなくなった。最終的には燃料がなくなって朝 6 時頃、近くのガソリンスタンドの方の協力でガソリンを入れたので、排水活動が出来たという状態でした。土のうの土を安全に保管できる場所を確保しなければいけな

いと思ったのでそういった事を要望していきたいです。

■ 大福 中分団長

7/6・7 と職務の関係上、職場で待機していたのですが、6・7 日に何かあれば連絡してくるようにと連絡はしておりましたが、私的な関係で大きい家屋もなく、特に団員からも市議からも出動の要請も被害の状況も連絡がなかったため、団員には自宅待機を指示しました。

7/7、消防本部から出動要請がありましたので、分団内の道路の点検、川、倒木、落石の撤去を行い6/24 に訓練をした地図が非常に参考になり予行演習をしていたものですから、地図を中心に全域を回るのに3~4 時間かかりました。

今回の災害では国道、県道、市道の通行止めが多かったものですから、団員も自宅に帰れない消防活動にも出動できない団員もあり、大勢の団員がいないものですから、限られた団員での活動になりました。職場で待機していた関係もあるのですが、他分団の活動状況が詳細に目配り出来なかった関係で我が団は被害が少なかったんで応援に行くことも出来たのかと思うのですが、そういう考える時間もなかったため、なんらかの方法で要請をしていただければ応援出動が出来たので、情報共有が出来れば良かったと思います。

■ 加藤 吹屋分団長

中分団長と同じように吹屋の方はあまり被害がなかったと言うか、山の崩落で道路が通行止めになった箇所があったぐらいで、被害もなく出動要請もなかったのですが、日頃流れていない谷に水が出て土砂が道に出たのが1 件ありました。また、団員の家の角の一部が崩落したぐらいです。7/5~7 にかけて時間はとびとびになりますが警戒活動を行いました。

反省点として日頃流れていない谷に水が出たので勉強しなければいけないと思いました。水防訓練の資料をお返ししていたので場所の確認が出来なかった。他分団との連携、情報共有が必要ではないかと思いました。高梁市近辺の情報が分からなかったため、応援要請があれば出動出来たと思いました。

■ 石川 手荘分団長

成羽川からの排水路の逆流により、1 階部分の浸水が2 件、裏山からの大量の雨水によって床下浸水1 件、谷川の氾濫により床下浸水1 件、土砂崩れが数箇所となっております。

活動内容といたしましては1 階部分が浸水し排水作業に行きました。高山分団に応援していただいてポンプ車2 台と小型ポンプ5 台で約11 時間くらいかけて行いましたが間に合わずに水没してしまいました。谷川に土のう積み、流木等の撤去、水路の確保、要介護者と高齢者宅の避難誘導、生活道路の土砂、倒木等の撤去を行いました。

反省点として大規模訓練で行った指揮本部等が手荘地区、川上町地区には設置されなかったため6 月に行った水防訓練のようにはなっていないかと思いました。避難場所が町内で1 箇所しかなかったため、もう少し数を多くしていただかないと避難するのに危険な場所を通って行くようになるので、そのへんをもう少し考えていただけたらと思います。

排水作業によってポンプが1 台故障、2 台故障になりました。この時、ポンプで泥水を吸っただけでいけなと言われてしまったため排水作業はどうなのかと思いました。

要望として各家庭に消防団員はメール等で分かるんですけど、避難状況とか避難場所等が住民に伝わってなかったため、知らない人が大勢いたらしいです。

夜間の作業だったので投光器、ヘッドライトを配布していただけたらと思います。

今回、初めて避難指示と言うのが出たと思うのですが、その場合消防団員はどういった対応を

したらいいのでしょうか。疑問を言われた方がいますので、そのへんを教えていただきたいと思っています。

■ 三宅 大賀分団長

7/6、地域の地区長さんから、側溝へ木が入り込んで近くの家が浸水しそうなと要請があり、大賀分団が出動し土のう積みに行きました。午後 7 時頃でしたので水量はあまり多くはなくて、側溝の木は取れ、家が浸水することはなかったのですが、地区長さんから念の為に土のうを積んでくださいと言われたので土のう積みを行った後、地区長さんからの要望により公会堂及び公民館に団員を朝まで待機させました。

木が入り込んだ側溝の上側にある公民館に水が入ると言う事で、そこに土のうを積もうと言うことで下大竹のコミュニティーハウスに土があれば良かったのですが、川上地域局まで行って土のうを作成しました。

その後、私は地域局におり、他の団員を下大竹のコミュニティーハウスに行かせました。現場からいつになっても来ないと連絡があったので確認したところ、道路が浸水し途中で車が動かなくなり、皆で車を押して水の無いところまで出し川上地域局に帰っていたところ、他の軽四へ土のうを積み替えて行こうと思いましたが、どの道も通れないとの情報が入ったので、現場に居る団員に道を聞いて現場まで行きました。行きは行けたのですが、帰る時は土砂崩れ等で通れない状況でした。この時、下大竹ダムからの支流の川伝いの 1 部の団員の家の前の橋が流されまして、そこのお婆さんをどうにかしなければいけないと要請があり、1 部の団員を救出に行かせました。

上流の橋を渡って 500m 下流の家までお婆さんを迎えに行きコミュニティーハウスへ避難をさせたという状況です。その後、出動している団員に地域局へ帰るよう指示いたしました。

そうしているうちに、大森工業の人から配電盤が浸かりそうとの要請があり、土のうを積みに行きました。そこで 2t ダンプへ土のうを積んで行っていたら、水かさが上がってダンプが浸かりました。車 2 台が浸水してしまったので車を置いたまま歩いて帰ったと言う状況です。

団員がカッパを着ていたのですが、水がしみてあまりにも寒くていけないと言う事で、12 時頃家で待機させました。

反省点として私は地域局にいたのですが、地域局長に川上地域で対策本部を取るよう言い切れば良かったと思いました。前回の水防訓練で行ったような感じでどこどこが通行止め、どこどこがどうなんと言う把握が出来れば良かったのですが、団員からの情報のみで、地域からの情報は入ってこなかった。

後から聞くのに大賀 2 部の地内でも土砂崩れで家が 2 軒くらいあったと言う情報を団員から後で聞きました。そういう時に情報が入れば応援に行けたのにと思いました。

■ 信木 高山分団長

7/6 の夜、手荘分団の排水作業の応援に行き朝までしました。夜が開けて自分団に帰り見回りをしました。7/8 にはある家の裏山が崩れると言うことで、ブルーシートを貼る活動をしました。

高山は高い所にあり水害と言うことは無いのですが、山崩れの方が怖いです。

1 軒山が崩れて流されました。

■ 赤木 備中分団長

市場地区、田原地区、布瀬地区が水深が低くなっている地域です。消防団の活動としては、田原地区が浸水し、行方不明者がいるから心配でその家に行こうにもボートがなく、消防署へ要請をするも来るべく道が全て寸断されており、行けなかったのですが、近所の人ボートを使って

2人を救助しております。

側溝の水が溢れて土のう積みも行っています。

我々の地区は45年前の水害で痛い目にあっていものがいるものですから、水門を閉めるタイミングとか、すでに我々の所は水門を閉める基準と訓練を毎年しておりますので、そのへんはすぐきちんと出来て良かったと思えました。

避難勧告、避難指示は防災ラジオがありますので、かなり皆さんスムーズに避難されとりました。我地区は30軒、よその地区を合わせると80軒近くあると思いますが、避難勧告が出た7/6の7時頃どれだけの方が避難場所へ行っているかと思い避難場所へ行って見ると、ほとんどの方が行っていました。

消防団活動については、ほとんどの部と部が寸断されていまして、まともに活動することは出来ませんでした。成羽の自動車分団からもありましたが、放流量と水の高さの関係は非常に大事で、我々の所は常に800tはだいたい警戒水位で黒鳥ダムが毎秒800t出しますと、石屋の下の家が警戒しなければいけないらしいです。1200tになったら危ないらしいので常に話し合っています。

自分団で感謝されたのが、災害ゴミの収集、運搬を2日間して全部片付けたことです。

<事務局>

■ 平松 消防総務課長

以上で全分団から報告をしていただきましたが、各分団から要望が多かった備品の長靴、雨具、コート、ライフジャケット、土嚢の作成用具、投光器、ヘッドライト、長靴に関しては水の量によりますが、今お配りしているのが膝から下の分をお配りしていますが、何かいいものがあれば皆さんの要望を聞きながしていきたいと思っています。

今、備中の方で防災ラジオが非常に有効であったという話があって、今、高梁、川上、有漢は防災ラジオがない状況で地域差があるという状況が分かってきました。

避難をする方法として、車での放送ではなかなか届かない、直接行っても避難してくれない人がいるという事がよく分かったと思います。避難場所についても実情と合わないところがあったりするのかと思えました。各分団の中でも指定されている器庫とか各部との連携が孤立してしまうために器庫に帰れなかったとか、器庫自体が浸水してしまったりとかがありました。

召集のタイミングですがどの時点でするのか、活動中の隣接分団との情報共有で川上地域は手荘分団は自動車分団と高山分団に要請をしていますが、消防本部からも連絡が出来ていなかったと思います。全体的には各高梁地内の災害状況の把握と情報共有がなかなか難しいと感じました。

樋門についてですが備中町は黒鳥と田原にあります。

<団本部>

■ 西 団長

7/6、仕事を済ませてから消防本部に詰めていたのですが、実際消防本部にいても情報が入ってこない、ただ確実にあるのが人命救助関係の話が入ってきます。

どこそで孤立しているので助けてくれーとか、救助に来てくれーとか、広瀬もそうでしたし、備中もわりと早めに、人命救助的なことは入ってくる。

本部にいて一番多かったのが、NHKとかマスコミ対応でいろんなところから入りこんなに大変

なことかと思いました。専用の電話が一つあっても良いのではと思いました。

7日になって各分団の道路等調査するようにメールで一斉に来たぐらいで、団本部も実際に私と森下本部長、加藤副団長が7日の朝来たぐらいで、あとは道路が寸断され団本部に集まろうにも集まれない状況になっていましたので、団本部として今回は何も出来なかったと思いました。

皆がそれぞればらばらに動いていますので、それぞれに思いがあろうと思います。

■ 江草 副団長

平川で1軒水没しそうになりました。川が氾濫して避難するように言ったのですが、家が大事なためなかなか避難しませんでした。浸水前には決断されて避難しました。そんな時は無理やりでも避難させたほうが良いのかと思いました。

土のう袋が足らなくなり取りに行こうと思ったところ、交通が寸断されて孤立状態となり、下にも降りれないので高山分団に土のう袋を借してもらいました。

■ 江川 副団長

ほんとうに皆さんの活動を聞いて大変だったと思うのですが、普通火事で考えると我々もいろいろな現場に行って皆さんの活動を指揮出来ますが、今回は活動状況の把握も何も出来なかった。今回は皆さんのところを回るべきだったかと思うのですが、有漢で行方不明者が出て、そちらが気になり気が回らなくて大きな反省点だと思います。

私も有漢から帰れなくなり、最初は有漢中央の一番大きい器庫を本部にしようかと思っていたのですが、話がおおごとになっているので、有漢地域局長へ電話して一室を借りて指揮本部を設置し活動をしました。

住民から地域局に来て、民家に水が入って来ている情報と団員へ直接言ってくる情報もあり、結局地域局に指揮本部を設置したので、局長にも情報共有し避難所にも自主防災組織、町内会長も集まって来ていたので、避難しない人を町内会長へ頼んだり、地域局か市民センターへ活動拠点を置いて情報共有するのが一番良いと思うし、市役所も消防の活動を情報共有して発信してもらい、我々もライングループを作って情報発信するのも良いのではと思い、情報共有が大事なと感じました。

岡山自動車動が通行止めになって、有漢インターチェンジから車が降りてきて、誘導が悪くて接触事故を起こしているようなので、結局通行止めの赤い標識もタスキもないので地域局でベストとか赤い回転灯を借りて誘導したのですが、運転手に通行出来る道を聞かれても返答出来ない状況であった。

■ 加藤 副団長

団本部としては消防本部に来ようとしても通行止めで来れない、対策本部は各地域局、市民センターに設置して、連絡方法を各分団長は考えて活動状況を対策本部に随時入れる流れを作っていかなければいけないと思いました。

隣接分団との情報共有も必要になってくると思いますので、早急に考えなければいけないと思いました。

団員の活動状況の把握として積載車で5名乗車して行く等、分団長は状況を把握し団本部へも連絡すること。避難しない人への説得の仕方も考えていく必要がある。

■ 石井 本部長

分団内での情報共有、分団同士の情報共有、団本部との情報共有が出来ていなかった。

各地域における自主防災組織と、早期に分団との締結が必要であると感じた。

阿部のローソンの前の水門をどの時点で閉めるか、鍵と道具はどこにあってどのタイミングで閉めるかを確認しておく必要がある。

■ 石田 本部長

成羽地域局に指揮本部を設置し、成羽自動車、成羽分団と共に活動しました。

指示は出しましたが各部との情報共有は出来ましたが各分団との情報共有が出来ていなかったのが反省点です。

災害のイメージは持つように心掛けていたのですが、今回の災害で訓練等をしなければいけないと思いました。

この会議で各分団の方がいろいろと活動しているので、現場でいかして行きたいと思いました。

■ 鈴木 本部長

川上町で活動をしていたのですが、川上地域は対策本部が出来なかった、しょうとしてできなかったのではなく、そうゆう流れにもっていけなかった、各分団長独自で各地域で活動をされたり、分団長同士で連絡を取って応援要請をしたり、活動そのものは悪くはなかったと思います。

訓練で行ったような各地域で対策本部を作って分団長を集めて各情報を共有する形が取れなかった、ただ私が思うのに 100 パーセントそれが良くて集まれなかったからだめだとは私自身は思ってはいません。あういう状況で各地域を各分団長が見て活動するのもありかなと。ただ情報共有という意味では不足をしてたと思います。

対策本部は必要であったし否定するものではありませんが、必ずしも対策本部が出来なかったから 100 パーセントだめだと言う考えは、私自身は思ってはいません。ただし、今の流れでいけば、今後は対策本部を設置して訓練でしたような形が万全であれば、今まで以上に本部長として関わり持って行きたいと思います。

どちらかと言うと各地域のことは各分団長さんの判断でできるだけやってもらおうと思っておりましたが、そうゆう段階では良くない面もあると私自身も感じておりますので、今後はもう少し各地域のたてとなるような考えを持って活動していきたいと思います。

■ 森下 本部長

前回の水防訓練で分団からの情報管理がうまくできないなと反省しとります。

今回の災害に関して団長と消防本部へ待機していましたが、あの時すごかったです。あれで情報をいかに発信管理していくかと思いました。

もちろん水害に対する行動と防災が一番なんですけど、今後は情報管理が一番だと思いました。